

昨年度を振り返って

理事長 長谷川 憲 治

昨年度を振り返りますと、良かった点も多くありましたが、反面山形いのちの電話の抱える課題が改めて浮き彫りになった一年でもあったと思います。

良かった点から申し上げますと、コロナ禍にも拘わらず2年連続無休で電話相談を受ける事が出来ました。その結果暦年での電話相談受信件数は7,903件となり、ここ10年間で最大の受信件数となりました。相談員の皆さん・事務局の皆さんの高い志とご努力の賜で、深く感謝申し上げます。又、最大の課題であります相談員の人数ですが、今年度に入って直ぐの4月20日に25期生6名の方が新たに認定を受けられ、念願の3桁・100名体制となりました。山形いのちの電話29年の歴史の中で初の快挙です。

反面、財務運営面では年間で約84万円の赤字となりました。一昨年度は開催し100万円近い収益金を頂いたチャリティーコンサートを行わなかった事や、大口の寄付金が減少した事等が主因ですが、財務体質の脆弱さが改めて浮き彫りになった訳で、その改善が急務です。又、現在の事務局の建物ですが老朽化や耐震性の問題に加え、相談室の貧弱さ、事務所の狭さ等早急な対応が必要です。新たな事務局建設等の為の検討委員会を立ち上げ、準備に入っていますが、山形市の方針も不明確で、結論が出るまでには時間が掛かりそうです。

今年度は、山形いのちの電話開局30周年という記念すべき節目の年であります。10月26日に「開局30周年記念の講演会と集い」の開催を予定していますが、単なるセレモニー・イベントに終わらせず、この節目の年に当たり改めて「山形いのちの電話」の歴史を振り返り、今後のあるべき姿を模索する有意義な会にしたいと考えております。

最近「メンタルヘルス」という言葉を多く聞くようになりました。コロナ禍や複雑化する社会状況等で悩んでおられる方は残念ながら増加の一途です。山形いのちの電話は、これからも「悩んでおられる人々に少しでも寄り添い、お役に立てれば」との想いで活動を続けて参りますので、変わらぬご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。

いのちの電話の目的

いのちの電話は、孤独の中にあつて、時には精神的危機に直面し、自殺をはじめ、助けと励ましを求めている一人一人と、主に「電話」という手段で対話することを目的とする。